

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500147		
法人名	株式会社 福伸		
事業所名	グループホームときわの里 すずらの家		
所在地	岩手県奥州市水沢区中田町4番19号		
自己評価作成日	平成28年9月28日	評価結果市町村受理日	平成29年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0391500147-00&Pr_ofCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1
訪問調査日	平成28年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様が自分らしく生活でき、常に明るい笑顔で過ごせるようスタッフ一同心がけサービスを提供しています。 ・安全管理の徹底に努めています。(緊急・災害時の連絡体制、避難訓練の実施) ・地域との交流で関係を深めています。 ・医療連携体制を整え、利用者様の安心できる生活を支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・事務室を中心に「すずらの家」「なでしこの家」が左右に位置し、事務室からはそれぞれの活動する声がよく聞こえ、気軽に散歩に出かけられる環境となっている。調査日当日も「すずらの家」の5～6人の利用者が職員とともに散歩に出掛けている。また、利用者によっては個別で散歩に出かける時もある。 ・社長が作った新鮮な野菜やお米が食材となっている。季節により枝豆・赤紫蘇ジュース・干し柿作りをしている。 ・日勤帯の職員も4人と多く、ゆったりとした対応が行われている。また、職員の年齢層が広いことで利用者の対応も層の厚い対応が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票（グループホームときわの里 すずらの家）

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホール中央の目につくところに表示している。特に話し合いはしていないが、日々の生活の中で利用者の笑顔が見られるように心がけている。	各ユニットのホールに理念を掲示している。部会の中で話し合いを行っている。日常生活の中で、無理のない笑顔が見られるよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、広報等地域の情報を知り、行事に参加している。また、近隣の幼稚園との交流や事業所周辺の散歩を通して挨拶を交わしている。今年度は事業所の見学会をした。	地域の方に声掛けを行い見学会を主催し、11名くらいの参加があり、グループホームの様子を見ていただくことができた。地域の夏祭りや芋の子会、幼稚園の運動会などに出かけたり、7月には焼肉会を近隣の方々を招待し行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩やドライブ、外食などで利用者との交流を図りながらグループホームを理解して頂けるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で運営推進会議を開催し、行政・地域・家族代表者に参加頂き、提案や助言を頂いている。そこでの内容を職員に回覧し、サービス提供につなげる努力をしている。	運営推進会議の中で状況報告や社会的なニュース等が話題になることが多く、水害が心配な時の避難場所について見直しが行われている。メンバーが広がることで、より地域に密着した情報や意見が聞かれることと思われる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で提案や助言を頂き、また市役所に出向いた際には、相談や協力を頂いている。	長寿社会課より、運営推進会議やクリスマス会、焼肉会に参加がある。また、制度で分からない時や、防災で心配なことがある際は、消防署の防災アドバイザーに確認した方がよいなど、適切な助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	サービス向上委員会で身体拘束をしないケアについて話し合ったり、各ユニットでも気づいた事や困難ケースについて話し合い、事業所全体で身体拘束をしない取り組みをしている。	サービス向上委員会で取り組みや話し合いが持たれている。スピーチロックがないよう、普段の生活の中でも、どうしても手が離せない時でも、ただ「待って」と言うだけではなく、「今調理をしているので、5分待って」との説明を行うよう話し合い、取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者への言葉づかいや対応に気をつけ、職員間でも話し合うようにしている。また、入浴時など利用者の身体の変化を見逃さないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加した職員により研修会を開き、学ぶ機会を持ち活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分説明を行い、同意を得られている。また、面会時など個別に話しを聞き、不安や疑問点に答えるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに会話から要望や感想などを聞き、改善できるよう努めている。また、市より介護相談員が訪問し、そこでの聞き取りをケアに反映できるよう努めている。	市より、年に2回介護相談員の訪問があり、ゆっくりと利用者から日常生活について聞き取りが行われている。また、家族の面会時を利用して、意見や要望の把握に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議で提案の場を設け、管理者や代表者に伝えるよう心がけている。業務会議を設け、トップダウンについても全職員が共有できるよう連絡ノートを活用している。	夜勤手当の見直しや、手すりの改修、職員用のハンガーの購入などが行われている。ユニット会議の中で、話し合いが持たれている。また、会議の時には、隣のユニットの職員が1名参加することで、情報の共有に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう業務会議を開き、夜勤手当等の見直しをしたり、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種資格取得を勧めている。また、隣接する特養と合同で研修会や講習会企画して行い、スキルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等に参加した時など、情報交換をしたりして、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族からの不安や要望に耳を傾け、本人との関係づくりを図り、安心して生活できるよう努めている。 24hシートの活用。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申込み時や見学時など、当事業所について説明し理解して頂けるよう努めている。また、面会時などコミュニケーションをとるように努め、話しやすい環境づくりを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に訪問し生活環境の確認、情報収集している。また必要としている支援を話し合い、サービス提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理補助や洗濯干し、たたみ方など家事と一緒にし、生活の知恵を聞いたりと共同生活の場を再現できている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力を得て、外出や外泊など自分の生家や墓参りに出かけて行き、共に本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や兄弟、友人等の面会があり落ち着いて話しができるよう配慮している。隣接の特養に姉や友人を訪れたりしている。	海外で仕事をしている家族から、絵葉書がよく届いている方もいる。ヤクルトを続けて配達してもらったり、美容院に家族の対応で出かけている方もいる。通院の前日や、お盆に家に泊まりに行ったり、利用者の要望により、通院の帰りに家族と一緒に食事をして来られるよう声掛けをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、レクやホール内での交流を図っている。また、お互いにコミュニケーションがとれるよう橋渡ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の様子や他施設への情報提供など出来る範囲で協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動から、暮らしの意向や思いを把握して、希望に添った支援を心がけている。	お墓参りの希望があり、5名位の利用者が家族と一緒に出掛けている。買い物や花摘み、散歩など希望に添った対応が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等の会話から情報収集に努めたり、利用者との会話から生活歴や馴染みのある暮らし方などケアのヒントを得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の思うような過ごし方を軸に、コミュニケーションを取りながら、毎日の行動や状況を記録し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議でケース検討を行っている。モニタリング・アセスメントを行い、家族や職員より希望やアイデアをもらっている。	アセスメントは担当職員が行い、計画作成やモニタリングは管理者が行っている。トイレが頻回だった利用者は、気に入った方と食事を一緒にするよう席を変えることで会話が弾み改善が来ている。計画変更時には、家族と話し合いが持たれている。利用者一人ひとりの「アセスメントチェックシート」、「24時間生活シート」を作成し、きめ細かなサービス提供に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個別記録等、毎朝の申し送り情報共有し実践・計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に変化があればその都度、要望に応じて柔軟に対応できるよう努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームときわの里 すずらんの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼稚園等の訪問など行事を楽しみにしている。また地域の祭りなども積極的に参加して交流できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的には家族対応だが、対応が難しい場合にはシルバー人材センターを利用し、お互いに情報共有できるよう心がけている。歯科往診もある。	家族対応で以前からの病院を受診している利用者も多く、ご家族の対応が難しい場合にはシルバー人材センターを利用して通院している。また、訪問歯科診療を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に相談・助言をもらい、利用者の適切な受診、体調管理を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時の情報提供、また医療連携担当者と面談し、状況把握に努めている。協力病院には全利用者の情報を提供し連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化対応に関する指針」を策定し、協力医療機関と連携しながら、本人や家族の意向に添いながら支援していきたい。	「重度化対応に関する指針」を策定し、事業所が対応する方針について、本人は家族に説明している。訪問看護や訪問診療の体制が整っていない現状では、看取り対応は難しいものと認識しているが、できるだけ利用者や家族の意向に添った支援をしたいとして取り組んでいる。今まで看取りの経験はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接の特養でAEDの講習会に参加したり、急変時対応マニュアルを作成してある。連絡網を活用した訓練も考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施している。地域住民の協力や隣接する特養との合同訓練を検討している。	食料や毛布・ストーブ・カセットコンロを備えている。消防署の立ち合いで避難訓練を行い、アドバイスを受けている。区長より協力の申し出があり、今後も近隣の協力体制の構築を図っていく必要がある。	想定外の自然災害が続いており、今後もさらに災害対策の検討が必要になっている。夜間の利用者の避難訓練時の状態や避難路の足元の明るさなど、実践的な訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、個々に合わせた声のトーンや言葉遣いに気をつけている。特に排泄介助時は対応に注意している。	入浴したくない利用者には、「明日通院です」と声を掛け、入浴を促している。また、直接ホールから中が見えないよう暖簾を利用している。排泄の確認が必要な利用者には、「ペーパーがありますか」と声を掛けをしながら、そっと確認できるよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を傾聴し、自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで、個々に合わせた過ごし方ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは自分で選べるようにし、気候等に配慮し手助けしている。訪問理容を利用し身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材をメニューに取り入れ提供している。野菜の下ごしらえやゴマすり、自分の食事の下膳、食器拭き等の手伝いを一緒にしている。	朝・夕に、食器拭きを手伝っている。ご飯とみそ汁は、「すずらんの家」「なでしこの家」それぞれで準備している。朝食は夜勤の職員が準備し、昼食や夕食、おやつは調理専門の職員が調理している。ひな祭りには出張で寿司屋さんに来てもらい、好評だった。行事食等を取り入れ、利用者が楽しむ食事となるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の食事量、水分量を記録し健康管理に役立てている。また、調理を工夫し食べやすいように提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアができるよう準備し声がけしている。必要に応じて介助を行い、磨き残しのチェックをしている。また、歯科衛生士の往診時、相談や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄記録をつけパターンを把握し、さりげなく声がけしトイレ誘導している。利用者自身も食事やレクの前に自らトイレに向わっている。	自分でトイレに行かれる方が半数となっている。声掛けや誘導が必要な利用者は、声のトーンに配慮している。排泄の失敗がある利用者には、バケツを用意し汚れ物を入れておけるよう、羞恥心に配慮した対応が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や軽体操、散歩などで身体を動かし、働きかけを行っている。また、主治医と連携をとり服薬で排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタルチェックを行い、ゆっくり入浴できるよう支援している。浴室内で歌ったり、昔話を聞いたり、リラックスできるよう心がけている。	皮膚のために手拭いを利用し、保湿クリームを塗布している。同性介助の希望があったが、現在は希望がない。季節を感じていただけるよう、菖蒲湯が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて自由に休息・臥床を支援している。室内照明、室温も調節し工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報はファイルして職員が内容を把握できるよう所定位置に置いてある。誤薬や服用忘れなどないよう複数の職員がチェックする体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の下膳や家事手伝いなど役割を持ち、張り合いが持てるよう支援している。また、花の水やり、草取りなど外気に触れ気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設行事等でドライブや外出に出かけたり、天気の良い日は散歩をしたりしている。また、家族との外出や墓参りなど本人の馴染みの場所に出かけている。	2ヶ月に1回は、ドライブに出かけている。また、前沢の同会社経営のグループホームに米を取りに出かけたり、精米に出かけることもある。また、日常的に散歩や、買い物と一緒に掛けている。天気の良い日には、短時間でも戸外に出る機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の預り金は事務所で管理しているが、外出時などは嗜好品や必要な物を買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話などは制限せず、いつでも連絡できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	障子を開けたり、天窓から外気を入れるなど環境に配慮している。また、季節の花を飾ったり、行事の写真をホールに展示している。	洗面所に、職員が季節の花を持ってきて飾っている。ホールから近隣の椿や柿の木、夏にはヒマワリがたくさん咲いている庭が借景となり、利用者が季節をホールの中からも感じている。行事の写真や、家族の毛糸で作った居室前の毛糸の花など、一律ではない居室の表示となっている。ホールには、食卓やソファが配置され、利用者が思い思いに過ごすことができるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に長イスやソファを置き利用者同士、思い思いに過ごせるよう環境づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真や馴染みの物、好みの物を飾ったりして居心地よく過ごせるよう工夫している。	位牌やアルバム、テレビを持ってきている利用者もいる。また、タオルケットや毛布を持って来てもらっている。馴染みの枕を持ってきている利用者もいる。写真など職員が飾っても、「すずらんの家」の利用者は、片づけたがり、「なでしこの家」の利用者は飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや移動経路の安全に配慮している。トイレの表示を工夫したり、両ユニット間を行き来できるよう開放している。		